二〇一八 成年

砂羅向山（さらむき）山頂からの眺望

常陸大宮市長
三次　真一郎

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より市政全般にわたり温かいご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は、これまで友好関係を築いてきたパラオ共和国との東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会事前キャンプに関する基本合意書の締結や、道の駅常陸大宮～かわプラザ～オープン後１年５か月での来場者100万人達成、さらには、泉坂下遺跡とその出土品が国史跡・国重要文化財にダブルで指定されるなど、常陸大宮市の名を内外に発信する大変喜ばしい出来事がありました。

また、茨城県北西部を舞台とするＮＨＫの連続テレビ小説「ひよっこ」が、４月から半年間にわたり放送され、本市を含む県北地域が注目を浴びた１年でもありました。

市政運営につきましては、依然として厳しい財政状況が続き、人口減少や少子高齢化の急速な進行、公共施設をはじめとする社会インフラの老朽化、さらには自然災害の発生など、本市を取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、時代の変化を的確に見極め、将来にわたり夢や希望を抱ける常陸大宮市を築いてまいります。

そのために、子育て支援や教育環境の充実、産業や雇用創出の支援など、創生総合戦略に基づき人口減少に対応した施策に積極的に取り組んでまいりますとともに、医療環境や生活道路の整備、防災･危機管理体制の確立、新たな公共交通体系の構築など、市民の皆様が安心して生活できる基盤をしっかりと整え、引き続き市の発展に向けて全力で取り組んでまいります。

平成30年という節目の年を迎え、「ふるさと常陸大宮」を次の世代、そして未来へとつないでいくため、地域の個性や特色を最大限に生かしながら、魅力と活力あるまちづくりを市民の皆様とともに着実に進めてまいりたいと考えております。

結びに、市民の皆様のなお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご多幸、そして実り多き輝かしい１年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

常陸大宮市議会議長
髙村　和郎

明けましておめでとうございます。

「年明けてゆるめる心！うっとりと来し方をすべて忘れしごとし」という石川啄木の歌があります。皆様におかれましては、お揃いでお健やかに、そして、記念すべき明治維新から150年に当たる新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、ＮＨＫの連続テレビ小説「ひよっこ」が、茨城県の県北西部を舞台として放送され、本市をはじめとした県北地域が脚光を浴びた一年でした。反面、季節を問わず、局地的な大雨による自然災害が全国各地で発生し、本市でも台風の襲来に備え、住民の安全確保のための避難所設置をはじめ、災害の未然防止に努めた一年でもありました。

さて、本市では、昨年、泉坂下遺跡出土品が国重要文化財に、遺跡も国史跡としてダブルで指定され、これら新たな市の宝については、市民への周知はもとより、今後の保存、活用についての環境整備が求められております。また、道の駅常陸大宮～かわプラザ～は、順調に入場者を伸ばし、本市のシンボルとしての存在感を増しております。今後も情報発信と地域の核として、多くの交流人口の集う施設にさらに成長してほしいと願っております。

近年、少子・高齢化や人口減少が叫ばれている中、本市においても、様々な角度から調査・検討を重ね、各種施策を展開しているものの、課題は山積しているのが現状であります。市執行部、市議会はもとより、市民の皆様にも自身のことと自覚され、ともに考えていかなければならない問題であると感じております。

歳入が減る一方、社会保障費が増大していくのが確実視されている中で、中長期的な視野に立って、目まぐるしく変化する社会情勢に対応可能な社会保障づくりを、積極的に構築していかなければなりません。

市議会といたしましては、市執行部と連携を図りながら、二元代表制の一翼を担うべく、議会が一丸となり、市政発展のため、その職責を全うすることをお誓いいたします。

結びに、本市が自然豊かで暮らしやすいと感じられ、安心で快適なまちづくりの推進に期待するとともに、今年一年ともに手を携えて、健やかに過ごしたいとの思いを込めて、新年の挨拶といたします。